

グローバル人材の育成

研究主題

グローバルな人材の育成を目指した発信力の強化

～教科横断、体験活動を通して自分の思いを世界に発信できる生徒の育成～

明峰中学校におけるグローバル人材の定義

新しい時代において生きる力を身に付けた人材

目指す生徒像(ゴールの姿)

学びを生活に結びつけ、多くの見方・考え方で自分の思いを世界に発信できる生徒

具体像

1. 自分が住んでいる地域や国の文化や良さを、学び実感できる。
2. 他の地域や国のことを学び、違いや特徴、良さを学び、実感できる。
3. 相手との違いを認め、尊重し、良いところを取り入れて、自分の考えを高めることができる。
4. 自分の考えや意見、相手に分かりやすく伝える工夫をすることができる。
5. 他の地域、国の人たちと主体的にコミュニケーションしようとする気持ち、英語力を身に付けることができる。

7つのグローバルな視点を大切にした授業づくり

出会った人に「優しさ」と「さわやかさ」をプレゼントできる人の育成

～ 校訓【明朗】【自律】【友愛】と共に～

【学校教育目標】

豊かな人間性を養うと共に、知性を伸ばし、
逞しい心やからだをつくる。

県教委研究指定を好機とする学校づくり

【様々な教育施策の捉え】

- 学習指導要領改訂に向けた動き
- 第四期長崎県教育振興基本計画
- 第三期諫早市教育振興基本計画
- R7年度テーマ『挑戦と創造』

【保護者・地域と共にある学校】

- 目指す学校像・生徒像の共有
- 三者の尊重・信頼を基盤とした関係性の構築
- 地域社会、未来社会への展望

「7つのグローバルな視点」を授業のなみならず学校教育活動全体に生かす

自分の考えを持つ	互いの考えを比較する	広めた思考を再構築する	
<p>全ての子供の学力保障：教科経営の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「穿つ」のある授業づくり ◆過不足なき教師の説明、指示、発問 ◆生徒の学びに立った授業の展開 ◆「学力向上瓦版」「学びの習慣化メソッド」の効果的活用 	<p>比較は認合いの第一歩：特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆全職員で、生徒一人一人を大切にすること。 ◆全生徒が、互いに一人一人を大切にしようこと。 ◆一番遠くにいる子供のことを大切にすること。 ◆事実の向こうにある真実を見ようと努めること。 	<p>思考・実践の繰り返しによる再構築： カリキュラム・マネジメントの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆グローバル人材育成に果たす各教科等の役割 ◆「ユニット学習」による横断的学習の充実 ◆幼保施設、御館山小、本野小、鎮西学院高校・大学との連携→中等教育前期の意識 	
共に考えを創りあげる	多様な手段で説明をする	多様な情報を収集する	協働して課題を解決する
<p>共に創る：生徒会活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆大切にしたいのは「ケ」の取組。「ケ」から「ハレ」へを重視。 ◆生徒の力で創り上げる学校行事。 ◆自治の力の育成：深慮と議論を重ねた上でのルールづくり。 ◆集団を喚起する「言葉の力」育成 	<p>多様な手段：生徒の発信力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆情報活用能力の育成。 ◆ICT機器を効果的に活用した話し合い活動の工夫。 ◆「学習報告会」等の複数回実施によりねらう発信力強化。 ◆「書く活動」「話す活動」の重視 	<p>多様な情報：多様な人との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆PTA活動との適切なかかわり ◆学校評議員会、学校支援会議の見直し→学校運営協議会移行準備 ◆諫早市文教地区（幼児教育施設から高等教育施設まで）の利点を生かした多様なつながりの創出 	<p>協働：心を磨く教育活動の重視</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「一本の傘を3年間」それが実現可能な優しい傘立てをつくる。 ◆「はあい」「こんにちは」がこだまする職員室であること。 ◆「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」がきちんと言える子

「七草」「七夕」「七五三」「七福神」あるいは“ラッキー7”に“虹の7色”。とかく縁起の良いことで知られる「7」の数字ですが、令和「7」年度、明峰中学校に赴任した私が一目惚れしたのは「7つのグローバルな視点」でした。本校が、過年度研究において熟議の末に生み出したこの7つの視点にどう息を吹き込み、教育活動にどう根付かせていくか、そのことに責を果たすのが校長として私のなすべきことであると考えた次第です。

その結果、この7つの視点を「学校づくり」の切り口として生かすということに辿り着きました。何度でも立ち返り確認できるよう、また、何度も確認する内に諳んじることができるよう定着するよう、学校経営グランドデザインにも描きました。つくることが目的、掲げたらおしまいのお題的な言葉では、7つの視点たちがかわいそうですから。

この取組は、校長が変わり、スタッフの半数が入れ替わった「R7明峰」にとっても有効なものであったと振り返っています。グローバル教育を担うのはすべての教科の使命であることへの理解をうながすフィルターとしての働きもなしました。“全体をどう描き、それぞれにどのようにパートを担わせるか”カリキュラム・マネジメントにおいて校長のなすべきはこの言葉に集約されると思っています。明峰中校長1年生の私にとっては、学校づくりのよき相棒であった「7つのグローバルな視点」です。お知り置きの程、よろしくお願ひします。

グローバルな7つの視点を意識した授業づくり ……G視点を用いて自教科を見直し、教科の意義を探る

英語科学習指導案

美術科学習指導案

過程研究	生徒の活動	教師の手立て・評価
導入 7分	1. Small Talk. Where do you want to go during your summer vacation?	・対話が進んでいないペアには補助に入る。 ・不定詞を使って表現できているか確認する。
	めあて：長崎の魅力について、メモをもとに自分の気持ちを加えながらおすすめのものを紹介しよう。	
展開 ④ 3分 5分	2. 紹介したい長崎のおすすめのものを、メモをもとに書えよ。 3. ペアで長崎のおすすめのものを発表しあう。 1回目 誰に伝えたいのかを意識する。 2回目 理由を入れてみる。 3回目 自分の気持ちを付け加える。	・必要に応じて、個別に生徒を支援する。 ・生徒同士のやりとりをみとり、クラス全体で共有したい表現を確認し、発表ごとにその場で中間指導を行う。 【ペア学習の各段階における手立て】 ・生徒が使った英文を用いて、良い表現を共有する。 ・伝えなかった表現や自信のない表現について共有させる。 ・紹介文に自分の気持ちを加えさせる。 評価（観察にて） 相手意識をもち、理由や自分の気持ちと一緒にメモをもとにおすすめのものを紹介できているか。
まとめ 8分	4. 本時の発表を総まとめ、紹介したい長崎のおすすめについて書く。 次時の学習について見直しをもつ。	・生徒に、習熟の度合いに応じた2段階のモデルを提示し、その中から自分に合ったものを選び、参考にしながら紹介文を書かせる。 ・苦手な生徒へは、中間指導による個別指導をする。

7つのG視点

①自分の考えを持つ

②互いの考えを比較する

③広めた思考を再構築する

④共に考えを創りあげる

⑤多様な情報を収集する

⑥多様な手段で説明する

⑦協働して課題を解決する

過程研究	生徒の活動	教師の手立て・評価
導入 ①	・5分間スケッチでウォーミングアップを図る。	・自信を持って制作できるよう基礎的な描き方を身に付けさせる。
展開 ④ ⑥	・自分の作品についてどう表現すれば相手に伝わるか考え、ワークシートにまとめる。 ・班員の作品を見ながら、気付きをワークシートに記入する。	・言葉、表現の違い方を工夫させ、自分の思いをできるだけ整理させる。 ・作品の共有ができるように、事前に設定しておく。その際作品のいいところ、工夫しているところをあげるようにしよる。
まとめ ① ③	・クロムブックを活用しながら、一人ずつ自分の作品を紹介する。 ・一人の作品紹介が終わったら、班の中で意見の交換を行う。 ・全員の作品紹介が終わったら、自分の作品を振り返り、今後の展開を考える。	・画像ばかりを見ないで、班のメンバーに伝わるように相手意識をもって話をさせる。 ・級友の説明を聞く際は、作品の解説を聞きながら、メモを取るよう促す。 ・作者にとっていいアドバイスとなるようなことを伝えさせる。 ・どうすれば作品に反映させることができるか考えさせる。 評価（観察にて） 班員の意見を前向きにとらえ、これからの作品づくりに生かす点を明らかにできたか。 ・自分の思いと比較させながら、制作への意欲を高めさせる

中間指導 3回の練り上げの【視点③】

- 1回目 誰に伝えたいのか
- 2回目 伝えようとする理由はどこにあるか
- 3回目 自分の気持ちを乗せて

ユニット学習

ユニット学習とは、2・3週間程度の期間に、「学年教師」または「複数の教科(教師)」が協力し、学習内容をゆるやかに(できる教科ができる範囲で、無理なく)関連付けて学ばせる学習である。

ユニット学習は2種類ある。

一つは全校ユニット学習。核となる体験的活動や行事のテーマを意識して、各教科担当がそれぞれの計画のもと、授業をじっくり行ったり、授業のスパイスとして生徒に学ばせたりする学習である。

もう一つは教科横断的ユニット学習。一般的な教科横断的学習で、複数の教科で学んだ知識やスキルを結び付け、関連付けながら行う学習である。本校では、全校ユニット学習とともにユニット学習と称している。

- ・制作の意図を明確にし、相手に伝えるように説明させる。【視点⑥】
- ・班の中で、自由にディスカッションさせることで、発想の手がかりをつかみ、周りの意見をどのように生かしていくか発表させる。【視点⑦】

- 1 学期に1回程度学年毎に設定する。
- 2 ユニットの組むことができる教科で組む。(必ず9教科組むというわけではない。)
- 3 全校ユニットは、全教師で共通理解し、計画的に実施する。
- 4 授業まるごと1時間使う場合、授業の中でふれる場合等、扱いについて質量の差はある。

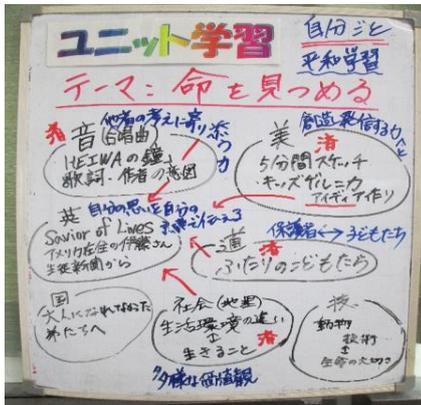
全校ユニット学習【命を見つめる】



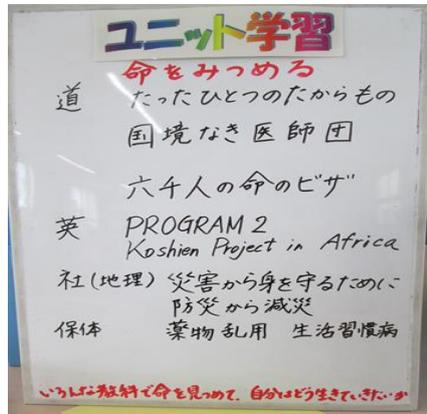
各教科
長崎っ子の心を見つめる教育週間

全校ユニット

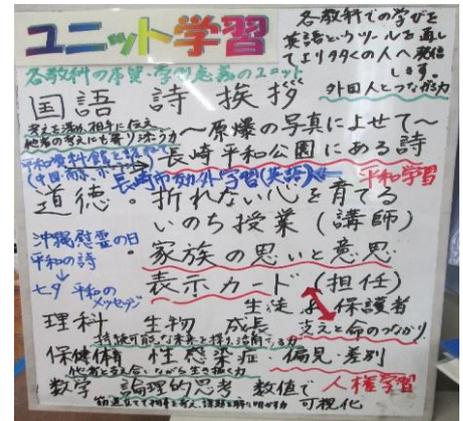
今年度 1 学期に実施した「全校ユニット学習」。核となる行事は、長崎っ子の心を見つめる教育週間。「命を見つめる」ユニットの名の下、1年音楽「HEIWA の鐘」、美術科「キッズゲルニカ」、道徳科「ふたりのこどもたち」、国語科「大人になれなかった弟たちに」等の授業を、前述の教育週間前後で、できる範囲で無理なく実施した。下の写真は、各学年が命を見つめるユニット実施に向けて自教科で受け持つ内容等を協議する際、実際に使用したホワイトボードである。



1年生



2年生



3年生

教科横断的ユニット

【英語科】上海インターナショナルスクールとの交流(R6・R7)



- ・【英語科】+【総合的な学習の時間】
キッズゲルニカ作成の取組
- ・【英語科】+【保健体育】
共にソーラン節を踊る

中国の高校生と直接交流

- ◎会って話すことができ、楽しかった。
- ◎自分の英語が通じたことが嬉しかった。もっと勉強したくなった。
- ◎自分の英語が通じなかった。もっと英語を学んで交流したいと思った。

【国語科】鎮西学院大学留学生

R7年 7月

論語について、10名の留学生へ向けて英語でプレゼン発表を行った。ファシリテーターは大学教授。生徒からは、自分たちの作った説明文やそれを翻訳した英文が留学生に理解され、つながりを感じたという意見やこれまで以上に英語の学習に取り組み、コミュニケーションの幅を広げていきたいという声が上がった。



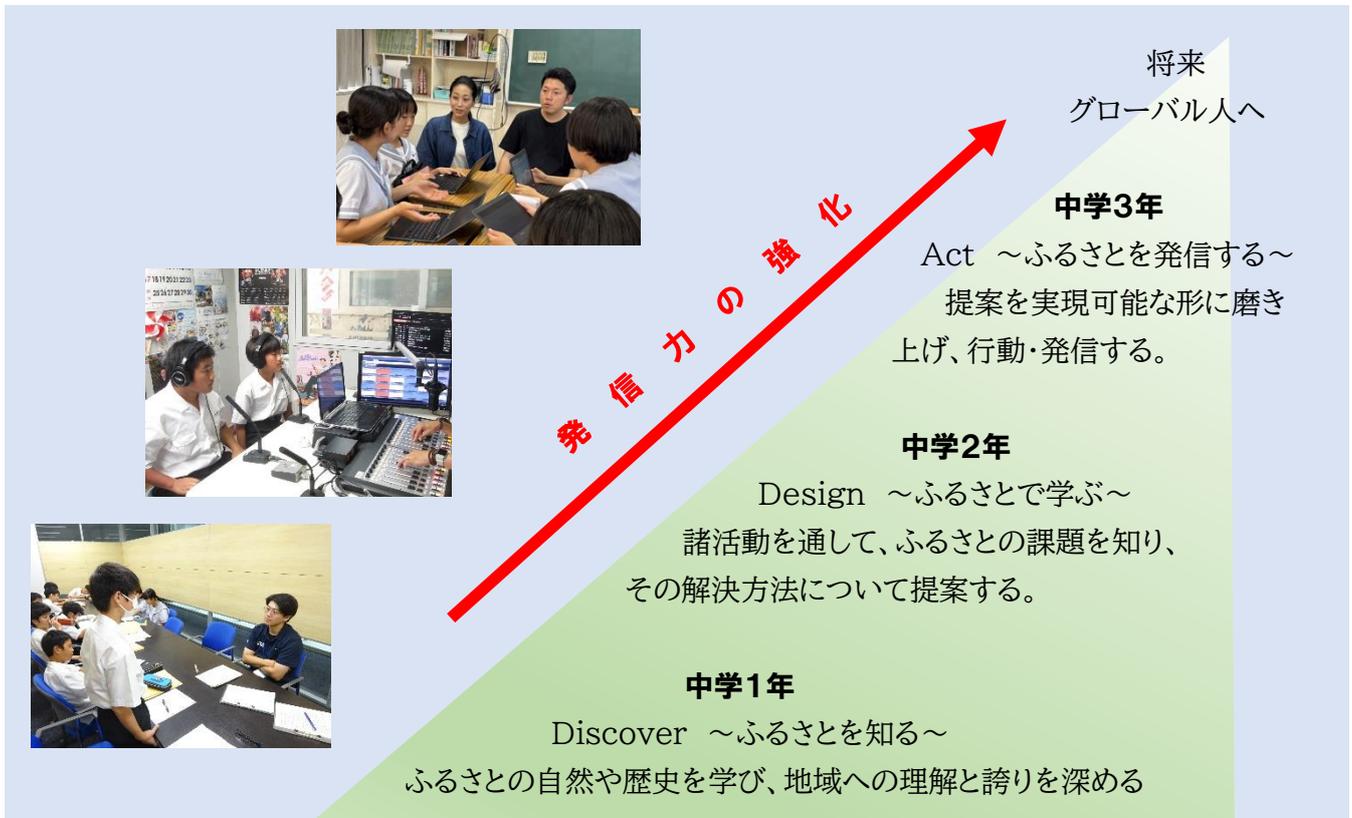
教科研究の扉の向こう側

グローバル人材教育の7つの視点を、各教科担当者が、「いつ、どこで、どう生かすか」考えたことは、教科の本質を追究することにつながり、授業を深い学びへと向かわせることができた。生徒も、7つのグローバルな視点を意識するようになり、英語科のみならず他教科においても、グローバル人材教育の視点から学ぶ意義を感じながら授業に臨むことができた。

一方、全校ユニット学習では、一つの教科による学習よりもまとまったひとくくりの学びを構築することで、生徒は、ある期間、意識的・波動的にしかも自然に学び、知識等を身に付けることができた。また、教科横断ユニット学習では、一教科では困難な学習も、複数の教科で授業を相互に関連させることで、内容が充実したり、異文化を知る等の予想外の教育効果を得たりすることができた。教師として、自教科の意義をある一面で捉えていたのではないかと自省するとともに、教科教育が広がる可能性を感じた。

総合的な学習の時間を、グローバル人材の育成を掲げる教育課程上の「体験・実践の場」と位置づけ、生徒が地域社会と積極的に関わりながら発信力を高め、国際的な資質を身につけることを目指す。

【研究主題と総合的な学習の時間のかかわり】

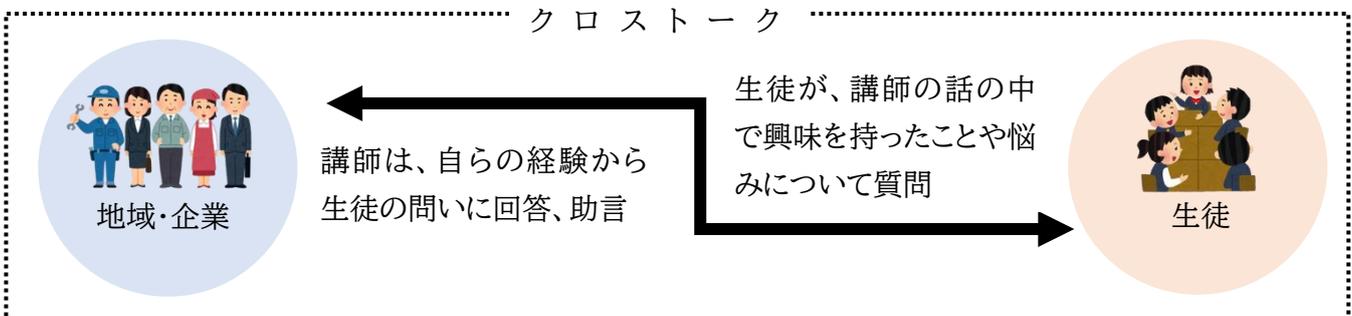


【現3年生のR5~7の主な活動】

1年時 (R5)	2年時 (R6)	3年時 (R7)
クロストーク／平和学習／諫早さるく／人権学習／総合発表会	クロストーク／平和学習／職場体験学習／人権学習／パネルディスカッション／総合発表会	クロストーク／平和学習／長崎市校外学習／人権学習／総合発表会

(1) クロストーク (全年次で実施)

- 目的 ①生徒と地域の企業や大人をつなぐ
 ②発表や提案活動に向けた課題解決の視点や方法の取得
 ③一方向の講義ではなく、生徒が主体となって問いを立てる双方向の学びの実現



クロストーク後のワークショップ



課題ごとに講師と協働しアイデアを具体化
 多様な視点の獲得と新しい価値の創造



今後の探究活動につなげる

(2) 諫早さるく(1年次に実施)

8コース:町おこし/SDGs/寺社/水害学習/偉人/キラ☆ビト/防災/福祉

ふるさとの自然や歴史を調査

フィールド・ワークや資料収集

地域の魅力の再発見

ふるさとへの愛着の醸成

次年度以降の課題探究の土台を築く



(3) 職場体験学習(2年次に実施)

昨年度、地元のお菓子×お酒×醤油+受験生を応援する「やる気おこし」が商品化

課題をグループごとに発見

協働して解決策を考案

地域の職場や団体への提案・発表

職場での聞き取り調査

実践的な課題解決力と発信力の強化



(4) 平和校外学習(3年次に実施)

SDGs・平和をテーマにしたインタビュー

観光客や市民との生きた情報の収集

国際交流と地域発信の融合

自らの言葉での発信

対話を通じた学びの深化



【地域とともに育む発信の場】

(1) 総合的な学習の時間と各教科等のつながり

① 総合×国語科…………… 鎮西学院大学の留学生と、孔子の論語についての交流授業

② 総合×保健体育科… 鎮西学院大学のサッカー部との交流授業

③ 総合×英語科…………… 鎮西学院大学の留学生及び鎮西学院高校のGE コースの高校生との交流授業

④ 総合×地域人材…………… ラジオ番組「エール」出演 地域の方々へ取組の紹介や協力依頼を発信
学校支援会議のメンバーのみなさんを対象としたミニ発表会



【地域とつながることで】

① 地域人材が大変有効な教育資源であることがわかったこと ② 地域・企業も、中学生の力を求めていることがわかったこと ③ 教師自身が改めて学校教育の意義を見つめ直すことができたこと 等の成果を得ることができた。地域や企業、大学、海外の教育機関など多様な人々との教師の出会いが、新たな生徒の学びの扉を開き、活動の幅を広げてきた。生徒が自ら地域課題に向き合い、社会とつながる経験を重ねることが、将来グローバルな視点を持った人材の育成につながると確信する。今後も更なる改善と発展を目指して、地域人材との交流を継続していきたい。

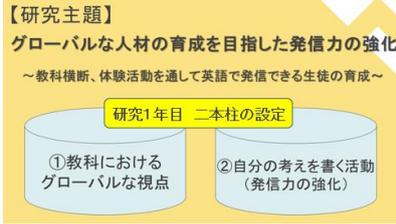
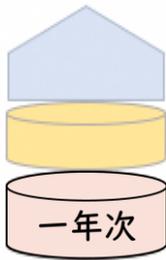


グローバル人材の育成を目指した研究とは・・・？

柱1 グローバル人材育成の土台づくり

・・・すべての教科等がその主体であることへの自覚を持つ。

【二本柱の設定と教科部会の充実】



- グローバル人材の定義の設定
- 自教科とのつながりの検討
 - ・大学教授等の先行研究者招聘
 - ・校区内小学校への連携授業提案
 - ・先進校視察
- 生徒用洋書購入等の環境整備

柱2 確かな土台の上に立つ全方位の授業実践

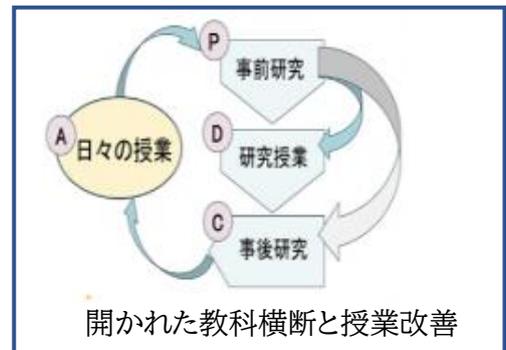
・・・PDCA サイクルの検証とセットに。

★7つのグローバルな視点による教育活動



- 各教科等の単独の取組で
- 教科等横断的な取組で
- 総合的な学習の時間をはじめとする様々な体験活動で
- 国際交流をはじめとする多様な人とのかかわりで
- 生徒会活動の取組で

授業の質的改善を目指した
校内研究の質的向上に向けて



柱3 汎用性の向上へ

・・・グローバル人材育成の広がりを目指して。



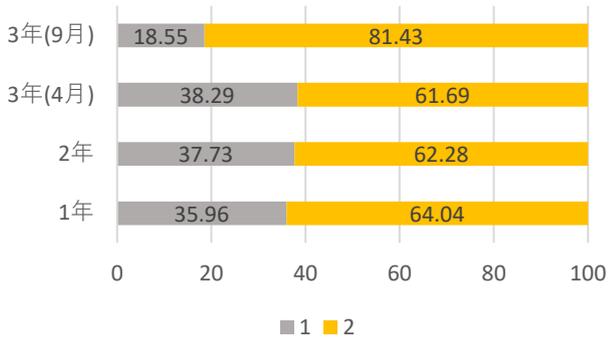
- カリマネの視点からのグローバル教育のとらえなおし
- 7つのグローバルな視点による授業づくりの見つめなおし(単元構想)
- ユニット学習の導入(学年単位で。教科のペア単位で。)
- 発信力強化を意識した学年経営、学級経過経営、教科経営の取組



【R7 4月 第1回校内研修】

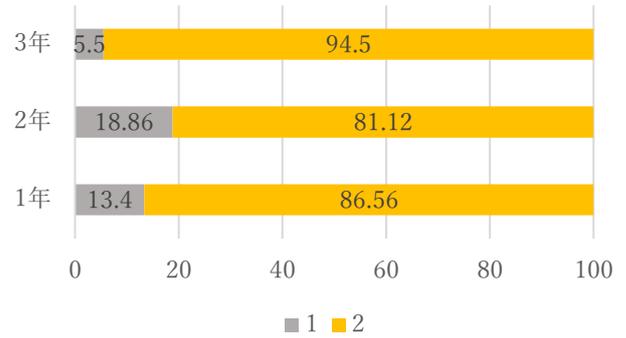
グローバル人材の育成に当たり、本校では英語科のみに焦点を当てるのではなく、カリキュラムマネジメントの充実という側面から、各教科の授業をはじめ教育課程全体で育くむべきものと捉え研究実践を行ってきた。授業実践においては、内容ベースの授業づくりから資質・能力ベースの授業づくりへの転換を図るとともに、単元構想をいかに描くかに腐心した。実践を積み重ねる中で原点回帰したことは、教員自らが授業改善に関心をもつべきであること、教師こそ主体的に学ぶ存在であるべきことという構えを持つことである。その上において組織的な研究を進め、発信力強化の育成を図るための実践を積み重ねてきた。子供を取り巻く社会状況は刻一刻と変動を続け、不確実である。本校が設定した「グローバル人材の定義」や目指す姿、そしてその具現化に向けた研究実践は、変動的で不確実な社会の中であって、凛と立つ人であってほしいとの願いをこめたものである。

自分の考えや気持ちを話したり、書いたり伝えたりすることが楽しい



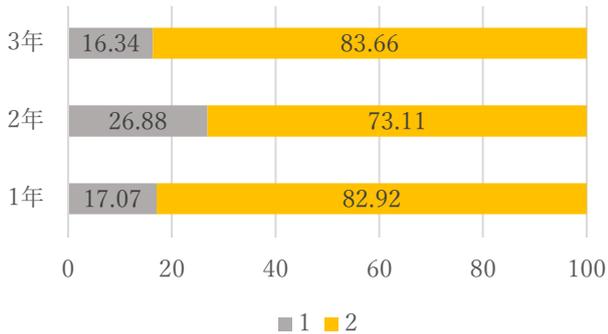
3年生の4月当初と9月に実施した結果を比較すると、夏の平和校外学習等の成果から楽しいと感じている生徒の割合は大きく上昇した。

互いの違いを認め合い、他者を尊重し、何事にも取り組める



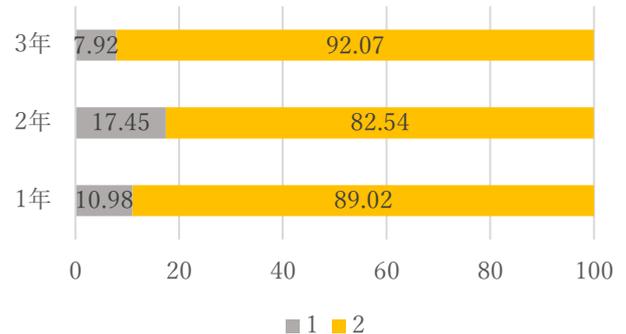
鎮西学院大学の留学生との交流活動等、異なる文化をもつ人との交流を通して、相互理解・国際理解の意識を高めることができた。その結果、8割を超える生徒が高い評価をしている。

級友からのアドバイス等を取り入れ、集団でよりよいものを目指す



外部講師を招いたクロストークや全校生徒が一堂に会した中での議論等を通して、お互いに意見交換をし、共有することで、肯定的に感じている生徒は7割を超えている。

話合いや意見交流により、自分の考えを練り上げ改善しようとする



各学年で、肯定的に感じている生徒は、8割を超え、授業や体育大会や合唱コンクールなどの学校行事でよりよいものをつくりあげようとする意識が高まった。

(※ 1→当てはまらない 2→当てはまる)

○まとめ

7つの視点に関するアンケートをとった結果、どの視点においても肯定的に感じている生徒は、約7割に及んでいる。どの学年も各教科の活動や特別活動での取組の成果が少しずつ表れ始めている。特に異文化理解に資する項目に高い結果が出ていることを嬉しく思う。

また、3年間の研究の結果である3年生のアンケート結果を見ると、たくさんの経験を積むことにより、生徒の「自分の思いや考えを伝えたい」という意識は向上したと言える。今後は我々教師も、生徒が自分の考えを自分の言葉で表現し、それを他者から受け入れられ、認められる喜びを感じさせる。そういう授業づくりを追求し続けたい。